



東日本通信網

東 京 本 社	電 話 03 (3445) 6111
関 東 東 総 局	電 話 027 (326) 3206
札 幌 支 局	電 話 011 (641) 5691
仙 台 支 局	電 話 022 (227) 7211
新 潟 通 信 部	電 話 0254 (24) 1835
長 野 通 信 部	電 話 0263 (54) 8855
機 浜 支 局	(東京本社内)
	電 話 03 (3445) 6111

ネットショップ  
メディアワークス

「経営支援システム」  
「羅針盤」シリーズの機能を大幅拡張

家電店などに提案

電器店を中心に、小売業全般に向けた総合経営支援ソフトを開発するメディアネットワークジャパン(東京都北区赤羽台3-1-19、澤田国治社長)はこのほど、主力製品「羅針盤」シリーズを大幅に機能拡張し、POS(販売時点管理システム)対応を強化した「羅針盤Pro・POSシリーズ」を開発、本格的に販売を始めた。現在、電器店を中心に提案を強化している。

「羅針盤」シリーズは、CTI(コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション)と地図データベース(DB)に、各種の販売管理・顧客情報管理システムを組み合わせた経営支援システム。澤田社長自身が地域量販店を経営した経験とノウハウが全面的に注ぎ込

まれているのが特徴だ。顧客管理を重視する小売業全般から高い評価を得ており、旧モデル「Pro」シリーズは約1千件の導入実績を持つ。



機能を大幅に拡張した「羅針盤」シリーズ

システムを導入すると電話の呼出し音が鳴った時点でパソコンの画面上に顧客とその住所周辺地図情報が瞬時に表示され、購買履歴などがすぐに見られるようになってい

る。また、パソコン2台をネットワークで接続し、運用できる簡易LAN/P2P(ピアトゥピア)版(69万8千円)の2製品からなる。「受話器をとる前に相手が見える。デジタル商品の普及に、より細かい商品説明が必要なケースが増えてくるが、顧客情報を見ながら対応できるため、顧客の

信頼に結びつくうえ、対応作業も効率化する」(澤田社長)。新たに搭載されたパソコンPOSレジ機能は、バーコードリーダー(読み取り機)を使い、商品在庫の管理から売上げ入力までを自動化する。読み取ったデータは、すべて顧客情報管理や売上げ管理システムとも連動している。

電器店のレジでは、商品をリーダーで読み取ること、画面上に商品明細が表示され、自動的に売上げの計上が行われる。それに伴い在庫数も増減する。顧客情報の購入履歴にも売上げ明細内容が自動転記され、「入力ミスの発生をなくし確実に処理できる」(同社長)という。新システムはPOSレジ業務のほか、ポイント管理など20項目の業務支援機能を持つことで、大幅に電器店の業務を効率化できる。システム導入した電器店には同社から流通市場価格一覧表などのデータも提供される。

今回、POS機能を除き、電話対応支援に特化した「ミニCTI Pro」も投入した。スタンドアロン版(13万8千円)と簡易LAN/P2P版(18万8千円)で構成され、全国4100万件の電話番号DB(4万5千円)とナンバーディスプレイアダプタ(1万5千円、いずれも税別)を標準で搭載する(Pro・POSシリーズはオプション)。

今後、両製品群を電器店の要求に合わせて柔軟に提案していくとしている。

「受話器をとる前に相手が見える。デジタル商品の普及に、より細かい商品説明が必要なケースが増えてくるが、顧客情報を見ながら対応できるため、顧客の